

目次

第一篇 地域社会の概観

第一章 位置、地勢、境界、面積、地質	一
第二章 区画	五
第三章 気象	五
第四章 生物	八
第五章 災害	九
第六章 人口	一〇

第二篇 川内町の誕生

第一章 川内町の沿革	一三
一、三内、川上両村の合併	一三
二、三内村川上村合併促進協議会	一四
1、三内村川上村合併促進協議会委員名簿	一四
2、村の合併に関する協議会協議事項	一六
三、三内村川上村合併促進協議会専門委員会	一六
四、三内村川上村合併促進協議会経過	一七

(1)協議事項 (2)部落懇談会

五、村名決定.....元

六、新村建設計画.....二〇

七、新村「川内村」の現況(昭和三〇年三月調査).....元

八、滑川及び明河の一部編入.....二〇

九、川内町の発足.....二〇

第三編 川内町の歩み (新町建設計画実施状況)

第一章 基本構想.....二五

1、人口、雇傭、所得及び生活水準に関する構想 2、土地利用の高度化、その他、立地条件の整備及び産業の振興に関する構想 3、道路其の他土木交通通信施設の整備に関する構想 4、教育文化厚生に関する構想 5、財政及び金融に関する構想

第二章 政 治.....二六

一、川内村(町)自治関係者、村(町)議会議員.....二六

二、行政機関.....二〇

三、川内町役場処務規定.....二〇

四、川内町役場庁舎建築.....二〇

五、川内町表彰さる.....二〇

第三章 財政状況.....二〇

一、歳入状況.....二〇

二、歳出状況.....二〇

第四章 諸官署の整備充実.....二〇

一、松山地方法務局川内出張所.....二〇

二、松山地方法務局川内出張所庁舎の建築.....二〇

三、県営重信川流域治山事務所、温温郡治山事務所の概況.....二〇

四、松山管林署川上担当区事務所(大字南方市場).....二〇

(一)担当区内の概要 (二)事業概要 (三)労務関係の概要 (四)管理組織

第五章 交通、通信.....二二

一、道路、橋梁その他土木施設の整備.....二二

1、国道十一号線改修工事 2、其の他 3、橋梁.....二二

二、建設省国道十一号線工事事務所.....二二

三、川内郵便局の概況.....二二

1、川内郵便局の沿革 2、川内郵便局の年表 3、川内郵便局現勢一覧表.....二二

第六章 産業開発に関する事項.....二二

一、川内町農村振興基本計画.....二二

二、第二年度.....二二

三、今後の課題	五
四、川内町農村青年建設班	六〇
五、農業委員会	六一
六、川内町の商工業（昔と今）	六二
七、川内町商工会（現況）	六三

第七章 教育文化施設の統合整備

一、統合川内中学校建築	六四
1、川内中学校建設費調	六四
2、生徒収容状況	六五
3、昭和三十三年度生徒の動向	六六
二、教育委員会	六七
1、川内村教育委員会	六七
2、川内町教育委員会	六八
三、川内町青年団	六九
四、川内町婦人会	七〇

第八章 消防施設の整備統合

一、川内町消防団条令	七一
二、消防団役員	七二
1、消防団員（各分団別）現在数	七二
三、設備事項	七三
1、木分団消防備品一覽表	七三
2、各分団消防備品一覽表	七四
3、蔵置所	七五
4、警鐘台	七六
5、防火水槽	七七
6、詰所	七八

7、各分団管内世帯数及び人口調（昭三三・一〇月末）	七八
四、川内町消防団表彰	七九

第九章 衛生施設の整備統合

一、川内町国民健康保険	八〇
1、川内町国民健康保険事業	八〇
2、川内町直営診療所	八一
二、川内町母子衛生実践会	八二

第十章 厚生施設の整備充実

一、川内公園	八三
二、社会福祉	八四
(一)生活保護	八四
(二)児童福祉	八五
(三)身体障害者福祉	八六
(四)共同募金	八七
(五)民生委員、児童委員	八八
三、川内町敬老会	八九
1、川内町敬老年金給付条例	八九
四、川内町老友会	九〇
五、川内町遺族会	九一
六、川内町志霊塔附属設備の建設	九二

第十一章 川内町神社仏閣

一、川内町神社総覧	九三
二、川内町寺院総覧	九四

第一部 川 上

第一編 自然誌

第一章 位置、面積……………一六

位置・境界・区画・面積

第二章 地勢、地質……………一七

総説、山、川、池と水利、舊藩堰の定法、地質

第三章 気 候……………一八

1、総説 2、気温 3、降水量 4、風 5、天気 6、雑象 7、気象に関する俚諺

第四章 変 災……………一九

飢饉、旱害、水害、地震、火災

第五章 生 物……………二〇

本村の生物、動物、植物、天然記念物オキチモズク

第二編 人文誌

第一章 沿 革……………二一

(一)村のあけほの (二)拓けゆく村 (三)にぎわう駅路 (四)新しい村づくり (五)新しい村へ
小字の由来、各村の大手鑑、明治五年壬申庄屋戸籍

第二章 人口、戸数……………二二

一、人口 二、戸数

第三章 政 治……………二二

(一)川上村役場の沿革……………二二

川上村自治関係者歴代表(村長、助役、収入役) 川上村自治関係者名譽職村会議員

(二)川上村駐在所……………二三

(三)登 記 所……………二三

(四)厚生 事 業……………二四

川上村託児所

第四章 経 済……………二六

財政、経済的地位、耕地と農家、米作及麦と雑穀、果樹、工芸作物、野菜、養蚕、牧畜、林業、商工業、
金融、貯蓄運動

第五章 教 育……………三二

寺小屋教育、川上小学校年表、川上小学校のうつりかわり、川上小学校の現状、青年教育、川上村松瀬川
小学校、教育委員会、川内町の私立学校、川上保育園

第六章 宗 教……………三三

神 社……………三三

川上神社、五柱神社、一の宮三島神社、揚神社、森正八幡神社、吉井神社、熊野神社

仏 閣……………三三

医王寺、岡之坊、上福寺、大興寺、南昌寺、応観寺、長泉寺、中山寺

日本キリスト教団川上教会・天理教川上分教会・金光教川上教会……………三三

第七章 民 俗……………三六

第八章 保健、衛生……………三六
 (一)幕末維新川上村衛生状態 (二)近世の保健状態 (三)伝染病 (四)本村に關係ある医師、歯科医師、薬剤師一覽表、(五)保健施設(火葬場、避病舎) (六)埋葬墓地一覽表

第九章 交通、通信……………三九
 道路、交通機関、通信、川上郵便局所在地一覽表

第十章 各種団体……………三〇

(一)農業協同組合 (二)川上村消防組 (三)川上村婦人会 (四)川上村青年団 (五)川上村商工会 (六)川上村森林組合 (七)川上村酪農組合 (八)川上村園芸組合 (九)川上村煙草耕作組合 (十)川上村遺族会 (川上PTA

第十一章 名勝旧跡……………三二

五柱神社、長福寺、桜三里、大検田畔、鳥越坂、上福寺、吹上池、黒穂池、船野岩、大興寺、阿弥陀堂、自性庵、茶堂、夷子宮、天神宮、応觀寺、川上神社、川上駅、善願寺庵、鎮守社、山椒庵、法界門橋、重信川、塩ヶ森城、南昌寺、揚天王宮、医王寺、片山、西法寺、和田様、苔谷燒、神明様、一の宮三鳥社、葛浦関、熊野神社、地藏堂、森正八幡宮、長泉寺、吉井神社、お吉泉、大西靈神、森天神様

第十二章 人物小伝……………三四

城長州、城督三、野口盛芳、野口芳躬、渡部喜一郎、渡部蔵五郎、豊竹村大夫、頭取小松川、渡部豊三郎、玉井正興、仙波良太郎、仙波寛三郎、藤井繁太郎、田中藤十郎、仙波茂三郎、仙波秀一、松木喜一、寺田さだ春日山、城ノブ

日露戦争大東亜戦争戦歿者及遺家族名……………三三

第二部 三 内

第一編 自然誌

第一章 位置、境界……………三六

第二章 地形、地質……………三六

 第一節 山 脈……………三六

 第二節 河 川……………三〇

 第三節 地 質……………三一

 第四節 鉱 物……………三二

第三章 面 積……………三三

第四章 区 劃……………三四

 第一節 穂 の 木……………三四

 第二節 小字の由来……………三六

第五章 気 象……………三九

 第一節 気 温……………三九

 第二節 降 水……………四〇

 第三節 天候に関する俚諺……………四一

第六章 生 物 三二四

 第一節 動 物 三二四

 第二節 植 物 三二四

 第三節 我が村の老木 三二九

第七章 変 災 三三〇

第二編 人 文 誌

第一章 沿 革 三三四

 第一節 王朝、武家、藩政時代 三三四

 久米郡手鑑(河之内村) 三三五

 久米郡手鑑(則之内村) 三三七

 豫州松山領大鑑(井内村) 三三九

 則之内村庄屋宇和川氏のこと 三六〇

 井内村庄屋戒能氏のこと 三六一

 戒能略譜 三六二

 河之内村庄屋山内氏戸籍 三六五

 第二節 明治維新以後 三六六

 一、百姓一揆 二、戸長時代 三、自治制時代 四、区制 五、道路の開通 六、区有財産の統一 七、大正時代 三六六

八、大戦 九、終戦以後

第二章 人口、戸数 三九五

 一、人口の推移 二、人口構成 三、産業別人口

第三章 政治、財政 三九七

 第一節 政 治 三九七

 一、三内村区会のこと 二、村是 三、歴代自治関係者一覧 四、警察

 第二節 財 政 四二七

 一、一般的事項 二、村財政の特色

第四章 経済(産業) 四三二

 第一節 村 の 農 業 四三三

 第二節 農家戸数と経営規模 四三五

 第三節 農業生産状況 四三七

 一、堰 二、溜池 三、調停書

 第四節 換 金 作 物 四四二

 第五節 地益及び土地の売買 四四三

 第六節 村 の 林 業 四四三

 一、林野面積 二、林業戸数と所有規模 三、林産物生産状況 四、造林と植伐均衡 五、苗木の需給

 六、森林組合 七、山林と耕地の所有関係 八、村有林の経営管理 九、伐採と収入 一〇、私有林

第七節 部落有財産統一の状況……………四〇〇

一、統一前に於ける部落有財産 二、村直営地の事業実行状況 三、村直営地外の経営 四、事業実行を
 確定ならしめるため執りたる方法

第八節 村の商業と金融……………四〇〇

第五章 教 育……………四〇〇

第一節 初等教育……………四〇〇

一、沿革……………四〇〇

(一)寺小屋時代 (二)第一期明治以後 (三)第二期明治以後 (四)六三制 (五)教育委員会

二、初等教育学校年表……………四〇六

三、小学校学校校林……………四〇六

第二節 青年教育……………四〇六

第三節 社会教育……………四〇六

第六章 宗 教……………四〇七

第一節 神 社……………四〇七

(一)三島神社 (二)総河内神社 (三)金刀比羅神社 (四)雨滝三島神社 (五)氏宮神社 (六)吉井神社 (七)三島神社

第二節 寺 院……………四〇八

(一)安国寺 (二)金毘羅寺(河之内西国三十三番霊場巡り) (三)善城寺

第三節 天 理 教……………四〇三

第四節 庵、小 社……………四〇八

(一)大通庵 (二)月光山門満寺 (三)名越山金姓寺 (四)龍翁山観音寺 (五)正六権現社 (六)虚空蔵菩薩 (七)十一面観世音
 (八)大元神社 (九)滝神社 (十)惣ヶ谷大森山吉祥寺 (十一)乘法華堂
 旧井内村の古社寺について 伊豫の安国寺

第七章 保健、衛生……………四〇九

第一節 沿 革……………四〇九

第二節 三内村国民健康保険の歩み……………四〇九

第三節 衛生の発達……………四〇六

(1)埋葬墓地管理者名簿 (2)火葬場 (3)獣畜埋殮場

第八章 交 通……………四〇〇

第一節 明治三十五年以前……………四〇〇

第二節 明治三十五年以後……………四〇一

一、東谷里道の改修 二、西谷里道改修 三、国道三十一号線中山越開通 四、交通の変革 五、河之内間
 屋部落のこと 六、木谷部落の移り変わり

第三節 昭和四年以後……………四〇六

(一)三内村土木補助規則 (二)橋梁 (三)村内電話

第九章 厚 生……………四〇三

第一節 沿 革……………四〇三

第二節 社会福祉事業……………四〇五

(一)敬老会 (二)共同募金 (三)兒童福祉 (四)身体障害者の福祉 (五)母子福祉

第十章 民俗(生活、風俗、習慣)

第一節 衣食住

第二節 祭祀

第三節 年中行事

第四節 結婚改善、花嫁衣裳の制定

第五節 娯楽及び娯楽施設

第六節 伝説

第七節 方言

第八節 迷信、俚言

第九節 民謡と童謡

第十節 三内村民の気質

第十一章 各種団体

第一節 産業関係団体

(一)三内村農業協同組合 (二)三内村森林組合 (三)三内村農業委員会 (四)三内農協婦人部

第二節 社会教育関係団体

(一)三内村婦人会 (二)三内村青年団

第三節 宗教的關係団体

(一)遺族会

第四節 其他の団体

(一)三内村消防団 (二)三内東谷校PTA (三)西谷小学校PTA (四)土谷小学校PTA

第十二章 名所旧跡

一、小手ヶ滝城跡 二、大熊城跡 三、鳥屋ヶ森城跡 四、則之内焼窯跡 五、川上水力電気株式会社発
電所跡 六、安園寺跡 七、東倉さん 八、薬師堂(月光山門満寺) 九、大通庵 十、雨滝 十一、久
保野淵 十二、名越城 十三、七森城跡 十四、亀甲城跡 十五、曙橋 十六、桜三里の今昔 十七、黒
川通俊の墓 十八、鎌倉堂 十九、乳生さん 二〇、とうぼんさん 二一、風宮さん 二二、白猪、唐印
の瀑布 二三、松根東洋城句碑 二四、塩ヶ森城跡

第十三章 人物小伝

一、近藤林内是正 二、近藤金四郎 三、佐伯求四郎 四、宇和川浜蔵 五、近藤鑑 六、宇和川宇太郎
七、高須賀伊兵衛 八、渡部愛蔵 九、東岩吉 十、北川徳次郎 十一、北川正惇 十二、近藤涼社
十三、大工彦六さん 十四、豊竹音羽太夫 十五、第三代竹木小椋太夫 十六、白戸小富十 十七、菅井
重郎 十八、中島七兵衛

戦歿者芳名録(日露戦争・大東亜戦争)

第三部 滑川・明河

第一編 自然誌

第一章 位置

第二章 地勢、地質

第一節	地勢	五八五
第二節	地質	五八六
第三節	田地と水利	五八七
第三章	集落の形勢	五八八
第一節	区劃、穂の木	五八八
第二節	小字の由来	五八九
第四章	氣象	五八九
第一節	降雨、降雪	五八九
第二節	氣象、氣温	五八九
第三節	風向	五九〇
第四節	天候に関する俚諺	五九〇
第五章	變災	五九一
第六章	天然物	五九三
	(1)沙岳 (2)面木山 (3)焼岳 (4)大杉 (5)風穴	
第七章	生物	五九三
第一節	動物	五九四
第二節	植物	五九四

第二編 人文誌

第一章	沿革	五九五
第二章	經濟	五九八
	一、總説 二、茶の栽培 三、楮 四、三椏 五、煙草 六、林業 七、製炭 八、養魚 九、商業	
第三章	文化、教育	六〇一
第一節	学校教育	六〇一
	一、学制以前の教育 二、滑川小学校の沿革 三、滑川小学校年表 四、滑川小学校の現状	
第二節	社会教育	六〇二
第四章	宗教	六〇四
	白山神社、総河内大明神社、光明寺、昌禪寺、天理教滑川布教所	
第五章	保健、衛生	六〇六
第六章	生活、風俗、習慣	六〇六
	一、風俗習慣 二、食事 三、住居 四、婚姻 五、葬儀 六、盆踊 七、正月行事 八、秋祭 九、方言 十、滑川の歌舞伎芝居 十一海上の方才 十二、滑川七人みさきの衆 十三、電灯	
第七章	各種団体	六〇三
	一、青年団 二、消防団	
第八章	交通、通信	六〇三
	一、交通 二、通信 三、橋梁	

第九章 名所旧跡

一、汐ヶ嶽 二、面木山 三、つよみ岳と鹿島神社 四、駒頭城 五、鎮西八郎為朝の墓 六、九騎峠
 附録 滑川部落議會議員名簿 二六四
 戦歿者芳名録(日露戦争・大東亜戦争) 二六七

追 録

一、道前道前水利開発事業について 二七〇
 二、愛媛県林業指導所 二七一
 三、川内町中学校体育館並びに講堂の建築 二七三
 四、割石山国有林の払下げ 二七五
 五、白猪、唐岬の滝 二七六

跋

写 真 図 版

川内町地質図 四
 川内町役場庁舎 三三
 高松宮殿下御来庁 三三
 国務大臣自治庁長官表彰状 三四
 松山地方事務局川上出張所 三四
 川 内 橋 三五
 法 界 門 橋 三五
 川内中学校 三六
 川内町消防団表彰状 三七
 厳寒の白猪ノ滝 三〇
 川内公園吹上池 三六
 松山観光ゴルフ場 三六
 川上村附近地勢略図 三六
 吹上池附近 三六
 菅 浦 堰 三六
 吹上池見取図 三六
 西組庄屋池、原組庄屋池 三六
 原上池、原中池、黒穂池、長谷池、等張池 三六
 若谷池と笠坪池附近山林地図 三六
 川上村の水利略図 三六

愛媛県地質略図 一〇六
 地 質 図 一〇七
 波谷川と扇状地 一〇七
 年平均気温図 一〇九
 全年降水量 一〇九
 湿度 図 一一
 川上村の気温と降水量 一一
 大宮社内及北方古墳群見取図 一二
 川上神社裏古墳出土品 一三
 明治以前の川上駅及屋号 一六
 川上村役場 一七
 川上小学校校舎変遷図(1) 一八
 川上小学校校舎変遷図(2) 一八
 川上村立川上小学校正面 一九
 川 上 神 社 二〇
 後田部古墳内部と埋葬品位置図 二二
 前方部古墳内部と発掘当時の状況図 二二
 五 柱 神 社 二二
 三 鳥 神 社 二二
 揚 神 社 二二
 森正八幡神社 二二
 吉井神社 二二
 熊野神社 二二

医王寺の仁王門	三二
岡之坊	三三
上福寺	三四
大興寺山門	三五
南昌寺	三六
応観寺	三七
長泉寺	三八
中山寺	三九
西法寺	四〇
川上神社の北に在る物部塚、在原塚	四一
川上中之町旧道入口金毘羅道標	四二
川上村道路要図	四三
温泉郡三内村平面図	四四
山椒ヶ崖の浸蝕作用	四五
三内村地質図	四六
愛媛県地質略図	四七
金毘羅さんの大杉	四八
ヒヨンの木の小枝(いすの木)	四九
三内村旧地図	五〇
河之内土谷肥草刈山の入山鑑札	五一
窪野のくりぬき用水路	五二
三内村有林分布図	五三
大正二年度三内第一尋常高等小学校秋季大運動会	五四

三島神社	五五
惣河内神社	五六
氏之宮三島神社	五七
吉井神社	五八
土谷三島神社	五九
安国寺の山門	六〇
安国寺須弥壇	六一
金毘羅寺仁王門	六二
安国寺蔵古文書足利藤氏公知行状	六三
松山藩一里塚	六四
近藤林内翁宅	六五
昔の農家の榎蔵	六六
近藤林内翁の墓	六七
近藤金四郎胸像	六八
忠霊塔	六九
東谷小学校水泳プール	七〇
小手滝城跡石垣の一部	七一
池がなる	七二
則之内焼燼跡	七三
井内中野薬師堂の仏像	七四
桜三里街道曙橋	七五
水柱の白猪の滝	七六
松根東洋城句碑	七七

鎌倉堂跡北条祠碑石	七八
川上村、三内村歴代村長	七九
滑川地方略図	八〇
滑川部落地質図	八一
月別平均気温図	八二
滑川小学校地変遷図	八三
白山神社	八四
惣河内神社	八五
光明寺の遠望と大杉	八六
愛媛県林業指導所の遠望	八七
育種用温室	八八
建築完成した川内中学全景	八九
川内中学校体育館	九〇
割石山樹海の一部	九一
割石山の林相	九二
白猪滝	九三
唐岬の滝	九四